

イザヤ書51-52章「立ち上がるエルサレム」

1A 敵から出ていく民 51

1B 近づく義と救い 1-8

2B 喜びの帰還 9-16

3B 憤りの杯 17-23

2A シオンに来られる主 52

1B 贖われたエルサレム 1-12

1C 着飾るエルサレム 1-10

2C 汚れからの脱出 11-12

2B しもべの栄え 13-15

本文

イザヤ書 51 章を開いてください。私たちは、イエス様がこの地上を歩まれたその生涯を、「主のしもべ」というイザヤの預言の中で眺めています。それと同時に、長年、廃墟になっていたエルサレムに対して、慰めの言葉をかけています。その神の愛の言葉は、まさに罪によって破壊されている私たち人間を神がいかに建て直してくださるのかを見せてくれています。

そして 50 章後半には、主のしもべが人々の侮辱を、御心のゆえに耐え忍ぶ姿がありました。しかし、その耐え忍ぶ姿には、神ご自身の御心を行なっているという自負があり、またこの見返りは神がして下さるというご自身への問いかけがありました。「7 しかし、神である主は、私を助ける。それゆえ、私は、侮辱されなかった。それゆえ、私は顔を火打石のようにし、恥を見てはならないと知った。8a 私を義とする方が近くにおられる。」イエスは、十字架の辱めを受けておられた時に、ご自身を義としてくださる方が近くにおられることを知っておられました。事実、三日目に神はイエス様を死者の中から甦らせてくださいました。

1A 敵から出ていく民 51

1B 近づく義と救い 1-8

そして、主のしもべと同じように、義を神に求め、自分自身は御心に服していく者たちに対して、51 章で励ましを与えておられます。

51:1 義を追い求める者、主を尋ね求める者よ。わたしに聞け。あなたがたの切り出された岩、掘り出された穴を見よ。51:2 あなたがたの父アブラハムと、あなたがたを産んだサラのことを考えてみよ。わたしが彼ひとり呼び出し、わたしが彼を祝福し、彼の子孫をふやしたことを。

義を神に求めた第一人者は、イスラエルの父祖であるアブラハム自身です。彼は、自分の姿を

見れば、単に天幕暮らしであり、その報いは自分で見ることなく墓に葬られました。イサクを神がサラから与えてくださったこと、そして、サラのためにマクペラの地所を購入しただけに過ぎません。しかし、彼は神に言われたことに従っていく報いを神ご自身に求めました。その約束をそのまま信じたのです。カナンを所有すること、また子孫が海の砂のように、空の星のようになると言われたので、その信仰が義と認められました。今、あなたがたは自分たちの父の足跡に従っているのだよ、と慰めているのです。異邦人である私たちに対しても、神は同じ励ましを与えておられます。「ローマ 4:12 割礼を受けているだけでなく、私たちの父アブラハムが無割礼のときに持った信仰の足跡に従って歩む者の父となるためです。」

51:3 まことに主はシオンを慰め、そのすべての廃墟を慰めて、その荒野をエデンのようにし、その砂漠を主の園のようにする。そこには楽しみと喜び、感謝と歌声とがある。

シオンが廃墟になっているのにそれを建て直して下さること、荒野をエデンのようにして下さること。それだけを見たら想像だにできない奇蹟です。けれども、アブラハムに対してそうして下さったのだよ、たった一人から事実、神はこれだけの子孫を増やして下さったのではないか。だから、同じようにエルサレムとイスラエルの地を回復して下さると約束されています。

51:4 わたしの民よ。わたしに心を留めよ。わたしの国民よ。わたしに耳を傾けよ。おしえはわたしから出、わたしはわたしの公義を定め、国々の民の光とする。51:5 わたしの義は近い。わたしの救いはすでに出ている。わたしの腕は国々の民をさばく。島々はわたしを待ち望み、わたしの腕に拠り頼む。51:6 目を天に上げよ。また下の地を見よ。天は煙のように散りうせ、地も衣のように古びて、その上に住む者は、ぶよのように死ぬ。しかし、わたしの救いはとこしえに続き、わたしの義はくじけないからだ。

主が、ご自分の公義とその教えがいかに広がりを持つのか、またどれだけの大きな影響があるのかを教えてください。主の公義は、今でさえイスラエルの中だけのとても小さなもののように見えます。しかし、それは神を知らない国々、異邦人のところ、異教徒のところにも光となっていくと教えています。そして主ご自身の力強い腕によって、国々も、島々も拠り頼むようになります。そして、国々だけでなく、天地そのものが影響を受けます。今の天地が過ぎ去り、しかし新しい天と地が訪れます。このようにして、神の救いの業、神の義は続いていくのだということです。

それゆえに、「心を留めよ、耳を傾けよ」と主は言われます。こうした、神に聞くという信仰の姿勢、信仰は聞くことによって始まるとローマ 10 章に書いていますが、この信仰の姿勢こそが、神が大きなことをして下さる要素なのだということです。イエス様は、良い土地に押した種の喩えでそれを教えてくださいましたが、三十倍、六十倍、百倍の実を結ぶ類いのものなのだということです。思い出してください、イエス様を見捨ててしまったばかりの十一人の弟子、そしてキリスト者の迫害者パウロを選ばれて、世界への証しを主は行なわせたのです。そして今、島々である私たちにも

その光が来ています。

だから私たちも、その中にいるのだ、イスラエルへの言葉は私たちへの言葉でもあります。何かの大会や集会において、私は時々、当惑することがあります。それは日本にリバイバルが起こることを宣言する人々の言葉を聞くときです。それは夢物語だと、人間的には考えてしまいます。もちろん現実を考えなければいけません。けれども、信仰の原理に従えば、アブラハムの信仰は、一粒の種でも多くの実を結ぶというものです。ですから、ご自身の信仰は必ず、ものすごい広がりを持つ、そういった多くの人に継承していくものなのだとということが分かるでしょう。

51:7 義を知る者、心にわたしのおしえを持つ民よ。わたしに聞け。人のそしりを恐れるな。彼らの
ののしりにくじけるな。51:8 しみが彼らを衣のように食い尽くし、虫が彼らを羊毛のように食い尽くす。
しかし、わたしの義はとこしえに続き、わたしの救いは代々にわたるからだ。

義を求める人、主の教えを持っている人は必ず、人からそしりを受けます。罵りを受けます。イエス様がそうであったように、必ずそうなります。そこで、大事な勧めは「恐れるな」ということです。そのような誹りは必ず、食いつくされます。そして自分の求めている神の義、救いが残ります。私たちがこのことを考える時に、直接的な誹りや罵りだけを考えてはいけません。それは、神の恵みによって、信仰により救われるという、すばらしい良き知らせを台無しにするような考え、この世の流れ、生活スタイル、価値観、そのような付き合い、すべてを含みます。

2B 喜びの帰還 9-16

51:9 さめよ。さめよ。力をまよえ。主の御腕よ。さめよ。昔の日、いにしえの代のように。ラハブを切り刻み、竜を刺し殺したのは、あなたではないか。51:10 海と大いなる淵の水を干上がらせ、海の底に道を設けて、贖われた人々を通らせたのは、あなたではないか。

ここから、「さめよ、さめよ」という呼びかけが始まります。先に、主が、自分たちのルーツアブラハムを思い起こさせていましたが、今は、主の義を待ち望む残された民が、主に「出エジプトを思い起こしてください」と呼んでいます。そこにあったのは、主の力強い腕です。5 節にも、「わたしの腕は国々の民をさばく」とありました。その力強い腕で、バビロンからの贖い、またこの世界からの贖いをしてくださいと願っているのです。

ラハブとか、竜とかいう言葉が出て来ていますが、ラハブはエジプトの別名です。当時、あらゆる力と富を持ち、あらゆるものを神々として、自分自身を神としていたパロの背後には、竜、すなわちサタン力が働いていました。エジプトは、イスラエルの民にとってこの世であり、その王パロはサタンのものでありました。この世を裁き、サタンの脳天を打ち砕くのは主ご自身であり、主はそこから私たちを解放してください。イエス様は、「さばきについては、この世を支配する者がさばかれたからです。(ヨハネ 16:11)」と言われました。

51:11 主に贖われた者たちは帰って来る。彼らは喜び歌いながらシオンにはいり、その頭にはとこしえの喜びをいただく。楽しみと喜びがついて来、悲しみと嘆きとは逃げ去る。

主がエジプトから贖い出してくださったのだから、同じようにバビロンからの贖い、シオンへの帰還も神が成し遂げてくださるという確信です。初めに救ってくださった方が、終わりまで救ってくださる、その救いを完成してくださるということです。私たちの間でも、神が良い働きを始められたのだから、キリスト・イエスの日までにそれを完成してくださいますね。それから、「喜び」が繰り返されています。その喜びを歌で言い表しています。それから、楽しみが伴っています。その嘆きと悲しみがそのまま喜びと楽しみになります。

過越の祭りの食事には、クラッカーの間に西洋わさびを入れて食べる所があります、「マロル」と言います。とつても辛く、つらかったのですが、その後ですぐ、りんごやナシ、いちじく、マツ、シナモンなどが混ぜ合わさった「ハロセト」というものを食べます。不思議なことが起こりました、その辛さ、からさが、そのまま甘い味に変わったのです。イスラエル人が奴隷生活で苦しんだその苦みが、そのまま甘い喜びへと変わるのです。それはちょうど、ヨセフが兄から捨てられて、苦い思いをしましたが、そのままそれがヤコブの家を飢饉から救う体験へと変えられたようにです。神は、このようなことを行われます。一時的な苦しみを、永遠の喜びと楽しみのために用意されることがあります。

51:12 わたし、このわたしが、あなたがたを慰める。あなたは、何者なのか。死ななければならぬ人間や、草にも等しい人の子を恐れるとは。51:13 天を引き延べ、地の基を定め、あなたを造った主を、あなたは忘れ、一日中、絶えず、しいたげる者の憤りを恐れている。まるで滅びに定められているかのようだ。そのしいたげる者の憤りはどこにあるのか。51:14 捕われ人は、すぐ解き放たれ、死んで穴に下ることがなく、パンにも事欠かない。

「さめよ、さめよ、主の御腕よ」と呼びかけた残りの民に対して、主ご自身が答えておられます。慰めると言われます。彼らはまだ、バビロンにいてそこで恐れを持っていました。あまりにも苛酷な神を認めない世において、恐れを持っているのです。私たちはまず、主の慰めによって恐れを克服する必要があります。

ここに書かれている言葉は、興味深いことに、これまで主が語られた言葉を思い起こさせているものです。「慰める」は、40章1節から、「草にも等しい」とは、40章6-7節にありました。「天を引き延べ、地の基を定め、あなたを造った主」は44章24節、45章18節にありました。「しいたげる者」は49章20節にあります。つまり、主はもう既に語った言葉を思い起こさせることによって、彼らを慰めています。私たちは恐れている時に必要なのは、主の既に語られた言葉です。それを忘れていたから、恐れています。イエス様が甦られてから、恐れている弟子たちに現れ、ご自身が三日目に甦ると話したであろうということを思い起こさせました。そして今、慰め主であられる聖霊は、主の語られた言葉を思い起こさせています。

51:15 わたしは、あなたの神、主であって、海をかき立て、波をとどろかせる。その名は万軍の主。
51:16 わたしは、わたしのことばをあなたの口に置き、わたしの手の陰にあなたをかばい、天を引き延べ、地の基を定め、「あなたはわたしの民だ。」とシオンに言う。

天と地を造られた神ご自身が、「あなたはわたしの民だ。」と宣言してくださいます。天地を造られた時から、彼らは主の手に抱かれていました。異邦人であっても、キリストにある者は同じように選ばれています。「エペソ 1:4 すなわち、神は私たちが世界の基の置かれる前からキリストのうちに選び、御前で聖く、傷のない者にしようとされました。」そして、主は、「わたしのことばをあなたの口に置き」と言われています。主のことばが私たちの口に置かれている時に、主はその手で私たちを守っておられます。信仰の言葉、心で信じて、口で告白する所の言葉がいかに大切か、ここで分かります。パウロは言いました。「ローマ 10:8」みことばはあなたの近くにある。あなたの口にあり、あなたの心にある。」これは私たちの宣べ伝えている信仰のことばのことです。」

3B 憤りの杯 17-23

51:17 さめよ。さめよ。立ち上がれ。エルサレム。あなたは、主の手から、憤りの杯を飲み、よろめかす大杯を飲み干した。51:18 彼女が産んだすべての子らのうち、だれも彼女を導く者がなく、彼女が育てたすべての子らのうち、だれも彼女の手を取る者がいない。51:19 これら二つの事が、あなたを見舞う。だれが、あなたのために嘆くだろうか。滅亡と破滅、ききんと剣、・・わたしはどのようにしてあなたを慰めようか。51:20 あなたの子らは網にかかった大かもしかのように気を失って、すべての町かどに倒れ伏す。彼らには、主の憤りと、あなたの神のとがめとが満ちている。

9 節では、主の民が「さめよ、さめよ」と呼びかけていましたが、今度は、主ご自身がエルサレムに向かって、「さめよ、さめよ」と言われます。立ち上がれ、と鼓舞しておられますが、それは彼らが入るを恐れているだけでなく、主に対する恐れも抱いていたからです。バビロン捕囚は、彼らにはあまりにも苛酷な体験でありました。エルサレムがバビロンに破壊されて、それからエルサレムの住民がそこを建て直すことはなく、七十年が経ちました。主は今、バビロンが取り囲みエルサレムを破壊したことのことを思い起こさせています。その彼らの怒りは、実はその背後で神がそれを許されていたということがあります。バビロンがエルサレムを破壊するということに、主はご自身の怒りという御心を置いていました。

そして午前中に学びましたように、バビロンに滅ぼされる彼らの姿は、神の怒りを受ける罪人である私たちの姿でもあります。このことは私たちが普段の生活をしていると良く分かりません。そんな怒りを受けるべきことを私はしているのか？と思います。けれども、それをパウロははっきりと言いました。「ローマ 2:4-5 それとも、神の慈愛があなたを悔い改めに導くことも知らないで、その豊かな慈愛と忍耐と寛容とを軽んじているのですか。ところが、あなたは、かたくなさと悔い改めのない心のゆえに、御怒りの日、すなわち、神の正しいさばきの現われる日の御怒りを自分のために積み上げているのです。」今、神は慈愛をもって、寛容と忍耐を尽くしてくださっているのです。そ

の中で私たちが悔い改めることを願っておられます。しかし頑なにして、悔い改めないのであれば、それはただ御怒りの日の怒りを積み上げているだけであります。

51:21 それゆえ、さあ、これを聞け。悩んでいる者、酔ってはいても、酒のせいではない者よ。
51:22 あなたの主、ご自分の民を弁護するあなたの神、主は、こう仰せられる。「見よ。わたしはあなたの手から、よろめかす杯を取り上げた。あなたはわたしの憤りの大杯をもう二度と飲むことはない。51:23 わたしはこれを、あなたを悩ます者たちの手に渡す。彼らはかつてあなたに、『ひれ伏せ。われわれは乗り越えて行こう。』と言ったので、あなたは背中を地面のようにし、また、歩道のようにして、彼らが乗り越えて行くのにまかせた。」

主がご自分の怒りを、イスラエルから取り除かれます。そして、イスラエルを虐げて、彼らを地面のようにして踏みつけたバビロンなど、虐げる者たちにその怒りを注がれます。主に用いられた器にしか過ぎない彼らが、自分たちにその裁きができると思ひ込んだからです。「裁いてはならない、裁かれないためです。」というイエス様の戒めのとおりで、裁く者は、同じ量りで裁かれます。そして、私たちは、「わたしの憤りの大杯をもう二度と飲むことはない。」という慰めを受け入れるべきです。人を恐れることも問題ですが、神を恐れて近づかないことはもっと大きな問題です。主はご自身の怒りを既にご自分の御子に身代わりに受けさせました。この方は罪を犯していないけれども、この方に置かれ、そして私たちに対しては、憤りの杯を取り去られたのです。

2A シオンに来られる主 52

1B 贖われたエルサレム 1-12

1C 着飾るエルサレム 1-10

52:1 さめよ。さめよ。力をまとえ。シオン。あなたの美しい衣を着よ。聖なる都エルサレム。無割礼の汚れた者が、もう、あなたの中にはいつて来ることはない。52:2 ちりを払い落として立ち上がり、もとの座に着け、エルサレム。あなたの首からかせをふりほどけ、捕囚のシオンの娘よ。

三つ目の、「さめよ、さめよ」の呼びかけです。51章とものすごい対象であります。51章では、エルサレムが酔いしれて倒れている娘を描いています。彼女が、立ち上がることができず、自分の上を誰かが踏みつけている状態です。このように塵の中にいた彼女に対して、「ちりを落として立ち上がりなさい。元の美しく着飾ったように、着飾りなさい。そして神の恵みの女王として君臨しなさい。」と命じておられます。

エルサレムが「美しい衣」を身にまとい「聖なる都」と呼ばれるようになるのですが、これを読んだユダヤ人はだれも、大祭司が身に付けていた装束を思い出すでしょう。出エジプト記 28章で、神がモーセに大祭司の装束について教えられました。2節「あなたは兄弟アロンのために、栄光と美を表す聖なる装束を作れ。」と仰せになりました。その装束が神の栄光を表しているのです。聖なるものであり、かつ美しいのです。

主は、新約聖書で教会のことをキリストの花嫁としておられます。「エペソ 5:26-27 キリストがそうされたのは、みことばにより、水の洗いをもって、教会をきよめて聖なるものとするためであり、ご自身で、しみや、しわや、そのようなものの何一つない、聖く傷のないものとなった栄光の教会を、ご自分の前に立たせるためです。」私たちがどんなに罪と汚れの中にいると知っていても、主は御霊によって私たちを洗い清めてくださいました。ご自分の言葉によって清めてくださいました。しかし、私たちがまだ自分が塵の中にいると思っている、凌辱された女のように思っているなら、そこから立ち上がらないといけません。主は、聖なる衣、美しい衣を与えておられるのです。だから、立ち上がりなさいと主は言われます。

52:3 まことに主はこう仰せられる。「あなたがたは、ただで売られた。だから、金を払わずに買い戻される。」52:4 まことに神である主がこう仰せられる。「わたしの民は昔、エジプトに下って行ってそこに寄留した。またアッシリヤ人がゆえなく彼らを苦しめた。

午前礼拝でお話したように、主はここで私たちが、無代価で罪が贖われたことを教えています。私たちが、ただで神の恵みを受けているのでしょうか？それは、恵みをもって恵みを受けることです。人から与えられるものを、喜んで受け入れるのではなく、何かしないといけないと思っている時に、それは恵みではなくなります。無代価に与えられたものを、そのまま受けることによって、私たちの心は変えられます。その恵みに預かっていけばいるほど、その人は変えられます。

52:5 さあ、今、ここでわたしは何をしよう。…主の御告げ。… わたしの民はただで奪い取られ、彼らを支配する者たちはわめいている。…主の御告げ。…また、わたしの名は一日中絶えず侮られている。

イスラエルの民が虐げられている時に、神の名が侮られています。パロは、「主とはいったい何者か。(出エジプト 5:2)」と言いましたし、アッシリヤのラブシャケも、「国々の神々がアッシリヤの王の手から救い出せなかったのに、主がエルサレムを私の手から救い出すとでもいうのか。(36:18-20 参照)」と言いました。そして宗教者さえ、罪の問題が克服できずに、その奴隷の中にいるので神の名が侮られるのだとパウロが話しました。「律法を誇りとしているあなたが、どうして律法に違反して、神を侮るのですか。これは、『神の名は、あなたがたのゆえに、異邦人の中でけがされている。』と書いてあるとおりです。(ローマ 2:23-24)」そこで主は、メシヤを遣わされます。

52:6 それゆえ、わたしの民はわたしの名を知るようになる。その日、『ここにわたしがいる。』と告げる者がわたしであることを知るようになる。」

「『ここにわたしがいる。』と告げる者がわたしである」とは誰のことでしょうか、そうです主イエス・キリストです。イエス様が、民の只中におられました。そして、「ここにわたしがいる」と教えてくださいました。イエス様がガリラヤ湖の水の上を歩かれていた時に、弟子たちが恐れました。それで主

は言われます。「わたしだ。恐れることはない。(ヨハネ 6:20)」

52:7 良い知らせを伝える者の足は山々の上にあつて、なんと美しいことよ。平和を告げ知らせ、幸いな良い知らせを伝え、救いを告げ知らせ、「あなたの神が王となる。」とシオンに言う者の足は。
52:8 聞け。あなたの見張り人たちが、声を張り上げ、共に喜び歌っている。彼らは、主がシオンに帰られるのを、まのあたりに見るからだ。

これは主の再臨の時に完成しますが、初臨の時に既にこの御国の宣言は始まりました。イエス様が甦られ、「平安があなたがたにあるように」と言われ、そしてその良き知らせを弟子たちによって言い広めさせました。その良き知らせを、「わたしだ」と言われる方を見た者たちは、同じように声を張り上げて、喜び歌って、それで言い広めるのです。コリント第一 1 章 21 節には、「宣教という言葉の愚かさを通して、信じる者を救おうと定められたのです。」とあります。世においては、その良き知らせは愚かに見えます。決してその足が美しく見えなんでしょう。しかし、主は美しいと見ておられます。

そして今は目に見えないけれども、主イエスを愛していますが、主がシオンに目に見える形で戻って来られる時が来ます。

52:9 エルサレムの廃墟よ。共に大声をあげて喜び歌え。主がその民を慰め、エルサレムを贖われたから。52:10 主はすべての国々の目の前に、聖なる御腕を現わした。地の果て果てもみな、私たちの神の救いを見る。

主が戻って来られました。主がその只中におられます。それで大声で叫んでいます。主がこのようにして慰め、贖ってください。それだけではなく、すべての国々が主の救いの恩恵にあずかります。「聖なる御腕」とあります。これまでの力とはまるで違う、聖なる力です。救いの力です。そして、「地の果て果てもみな、私たちの神の救いを見る。」とあります。主が戻られる時は、すべての国民がこの方を見ることになります。地の果て果ても見ることになります。その再臨までの間、私たちは御国の福音を全世界に伝えることを命じられています。私たちの教会も、大宣教命令の一部に入れられていることを忘れてはいけません。

2C 汚れからの脱出 11-12

52:11 去れよ。去れよ。そこを出よ。汚れたものに触れてはならない。その中から出て、身をきよめよ。主の器をになう者たち。52:12 あなたがたは、あわてて出なくてもよい。逃げるようにして去らなくてもよい。主があなたがたの前進み、イスラエルの神が、あなたがたのしんがりとなられるからだ。

ペルシヤによってバビロンにいるユダヤ人が解放されます。ですから、そこから出るように促され

ています。けれどもここは、単にバビロン捕囚からの帰還のみならず、終わりの日に離散の民がエルサレムに戻ることを促している預言でもあります。さらに霊的には、バビロンというこの世、その汚れた都に生きていて、そこから去り、聖なる都エルサレムに向かうことへの促しでもあります。

使徒パウロは、これを私たち主に仕える者たちに対して語る時に、意識していたと思います。「それにもかかわらず、神の不動の礎は堅く置かれていて、それに次のような銘が刻まれています。「主はご自分に属する者を知っておられる。」また、「主の御名を呼ぶ者は、だれでも不義を離れよ。」大きな家には、金や銀の器だけでなく、木や土の器もあります。また、ある物は尊いことに、ある物は卑しいことに用います。ですから、だれでも自分自身をきよめて、これらのことを離れるなら、その人は尊いことに使われる器となります。すなわち、聖められたもの、主人にとって有益なもの、あらゆる良いわざに間に合うものとなるのです。(2テモテ 2:19-21)」そしてテモテに、若い頃の情欲から離れなさい、と勧めています。このイザヤ書では、主の器をになう者たちが、そこから出て行きなさいと言っていますが、それは神殿で使われる器のことです。けれどもここテモテへの手紙第二では、自分自身の体を主の器と言っています。私たちが、主にあって自分自身をきよめているなら、主に用いられる尊い器になる。もしそうでなければ、用いられないということです。

そしてここで興味深いのは、出ていく時は慌てなくてよい、主が彼らの前に、また彼らのしんがりになってそこから出ていくことができるようにしてくださいと仰っています。霊的な解放は、慌てなくとも主のご臨在の中で行われるということです。新たに生まれた人は、自分が置かれている周りの環境に過敏に反応します。こんなところにいたら、私は救いを失ってしまうかもしれない、という不安を抱きます。また、これまで行なっていた悪習慣もどのように断ち切ったらいいか思いあぐねて、かえって不安になります。けれども、主はおられるのです。コリント第一 7 章で、奴隷の人がすぐに奴隷状態から解放されなければいけないと感じました。また異邦人なのに割礼を受けた人は、「これはいけない、割礼の跡を消さないといけない。」と言いました。けれども主は、「おのおの自分の目されたときの状態にとどまっていなさい。(20 節)」と勧めました。

2B しもべの栄え 13-15

そして 13 節から、第四の「ヤハウエのしもべの歌」に入ります。ここから 53 章の最後までがその歌です。そして 54 章から、再びイスラエルに対する慰めが書かれています。ここまで主が語られた、シオンへの慰め、その贖いをどのように行なったださるのかを描いていますが、それがあまりにも衝撃的であり、驚愕することであり、誰もが思いもつかないことであると言います。

52:13 見よ。わたしのしもべは栄える。彼は高められ、上げられ、非常に高くなる。

これまで僕の歌は、公義が国々に広められる、矢筒に隠した矢のように、言葉を語られること。だから報いが見えないような状況であったこと。それから、耳を開かれて、父なる神に対して全幅の信頼で服従して、人々からあざけられ、殴られる姿でありました。そして今ここで、「わたしのしも

べは栄える。彼は高められ、上げられ、非常に高くなる。」と言っています。後知恵で私たちは知っています。イエスは、死んで葬られて、三日目に甦られました。そして、四十日後に弟子たちの見ている所でオリーブ山から昇天されました。今は、父なる神の右の座におられます。神が、「キリストを高く上げて、すべての名にまさる名をお与えになりました。(9 節)」

52:14 多くの者があなたを見て驚いたように、..その顔だちは、そこなわれて人のようではなく、その姿も人の子らとは違っていた。..52:15 そのように、彼は多くの国々を驚かす。王たちは彼の前で口をつぐむ。彼らは、まだ告げられなかったことを見、まだ聞いたこともないことを悟るからだ。

主が戻って来られます。栄光と力を携えて雲に乗って戻って来られます。しかし、そこで彼らが見る姿があまりにも衝撃的です。地の果て果てにまで神の救いを見せる、その王の王、主の主である方が、見るも無残な顔立ちをしていたということです。それは損なわれて人のようではない、とまで言っています。主がこぶしで殴られ、そしてポンテオ・ピラトのところに連れて行かれ、無罪にするからと言っても、ユダヤ人たちが死刑にしると要求します。それで、鞭打ちによって懲らしめて、それで彼らの怒りと妬みを宥めようと試みます。その鞭打ちの時、その 40 回の鞭打ちがイエス様の背中を始め、体のあらゆる部分、顔も含めて引き裂かれたのです。ピラトが、「さあ、この人です。(ヨハネ 19:5)」と言いましたが、その時のイエス様の顔はもう人の顔のようではなかったのです。主は栄光に輝きながら、なおのことその損なわれた顔を保持しておられ、戻って来られます。

どのようにして、私たちの救いをもたらす王が、こんな姿になるのでしょうか？今、アメリカでは大統領選が行われていますが、アメリカの大統領候補の姿はとても華やかです。ある候補者はかつらではないかと疑われ、わざわざ支持者の女性にその髪を引っ張ってもらっていましたが、いかがでしょう、そこに緊急医療室に担ぎ込まれなければいけないほど損なわれた顔を持った人が現れて、アメリカだけでなく、全世界を救う王が来ると出てきたら。驚愕です。しかし、確かにこのどうしようもなく体が損なわれた方、病の人が全世界を救い、贖ってくださるのです。その理由を、53 章は詳しく説明してくれています。私たちは、キリストの受難の週に来週から入ります。今からでも、この方の受難に思いをはせていきたいです。